[Letter to the Editor]

一 症例報告 一

玉屏風散を使用した 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の 1 例

鈴木 信孝

Nobutaka SUZUKI*

日本補完代替医療学会理事長

Chairman of the Society for Complementary and Alternative Medicine

【キーワード】

漢方, 新型コロナウイルス, 新型コロナウイルス感染症, ハトムギ, CRD

[Key words]

Kampo, SARS-CoV-2, COVID-19, Coix lacryma-jobi L. var. ma-yuen Stapf, Coix-seed Reactive Derivatives

はじめに

新型コロナウイルスが猛威を振るっていた 2020 年 4 月上旬は, 感染症指定医療機関の病室はほぼ満床状態であった。また, PCR 検査も満足に行えず, 発熱が続く状態の悪い者も, 自宅待機を余儀なくされた。今回, 福岡在住の新型コロナウイルス感染症の患者から, セカンドオピニオンを求められ, 玉屏風散を使用した 1 例を観察研究したので報告する.

症例:71歳 福岡在住の男性 病名 新型コロナウイルス感染症

既往歴として小学校5年生の時に陳旧性肺結核、高脂血症ならびに軽度の高血圧症を認めるも投薬は受けていなかった。 令和2年4月3日に38°C近くの発熱とともに強度の全身倦怠感、咳を認めた(発症1日目)、発症2日目に近くの総合病院を受診、パルスオキシメターで酸素飽和度は96%、白血球数5,800/mm³、肺のCT検査は異常なし、ウイルス感染症を疑われるも自宅で様子をみるように言われた。発症3日目も同様の状態が続き熱は38.3℃まで上昇した。4日目に再度受診し、入院治療を希望するも入院はできなかった。前日はPCR検査はしてもらえなかったが、この日は本人が何度も頼み込んでやっとPCR検査を受けることができた。

この時点で、セカンドオピニオンを受けた著者は、玉屏風散(小太郎漢方製薬製)の入手を勧めた。玉屏風散は3包(4.5 g) 当たり水性エキス2g(オウギ6g,ビャクジュツ2g,ボウフウ2gより抽出)を含有している市販漢方薬である。発症4日目の夜から、4回/日内服開始した。また、市販のビタミンCの摂取も開始した。発症5日目には予想通り、PCR 陽性と判明し、急激な味覚・嗅覚障害も出現した。倦怠感もあり、入院の上、アビガン内服の観察研究を希望するも入院はできなかった。そこで、玉屏風散を5包/日に増量し、ハトムギ全粒熱水抽出エキス(ハトムギCRDエキス:株式会社 STIP 製)4g/日摂取も開始した。

発症 6 日目には倦怠感も著明に軽減し、高熱をみることはなく、37.2℃の微熱をみるのみとなった。発症 7 日目には、かなり体調も改善し、味覚・嗅覚障害も急速に改善しだし、食欲もほぼ改善をみた。その後は、咳、発熱を認めることなく経過し、発症 18 日目に PCR 陰性、発症 20 日目に PCR 陰性となったため、玉屏風散の内服は中止し、ハトムギ CRD エキスだけを摂取継続し、現在に至っている。なお、同居の妻は無症状であったが、予防的に玉屏風散を 3 包 / 日内服ならびにハトムギ CRD エキス 4 g/ 日を摂取した。5 月初旬に行った PCR 検査は陰性であった。

考察

本例は新型コロナウイルス感染症に対し、玉屏風散を使用した例であるが、とくに有害事象は認めなかった。玉屏風散は、風邪をひきやすく、衛気虚(免疫力低下)に効果的な漢方薬として知られている。COVID-19 には、通常、清肺排毒湯が推奨されているが¹⁾、今回は入手しやすい玉屏風散を使用し、症状は急速に改善した。玉屏風散は SARS 流行時に中国で使われ、実績のある漢方薬の一つである²⁾。

受理日:2020年5月24日

^{*〒920-8640} 石川県金沢市宝町13-1 Tel: 076-265-2147 Fax: 076-234-4247 E-mail: pcam@med.kanazawa-u.ac.jp

香港での研究によると、SARS 治療に当たった 11 病院の職員を対象にして、中医療法を行った結果、有意差を持って SARS 発症を抑制した。ここで使われた処方は玉屏風散と桑菊飲(杏仁、連翹、薄荷、桑葉、菊花、桔梗、甘草、蘆根)の合 方であったという²⁾。また、柴山は 2009 年の新型インフルエンザ流行当時、天津中医大学に在籍していて、玉屏風散 + 桑葉、陳皮、菊花を感染予防として服薬し、予防が可能であったという²⁾。したがって、本例のように自己管理を迫られた状況では、玉屏風散内服は、積極的に試みて良い治療法となろう。

また、ハトムギ CRD エキスは、Th1/Th2 比が上昇することが報告されており 3 、細胞障害性 T 細胞 (CTL) や NK 細胞の活性化も期待でき 4 、かつ in vitro でインフルエンザウイルスの抑制作用も報告されているので 5 、今回は、漢方薬と併用して摂取した。

COVID-19 のセルフメディケーションとして漢方薬内服は試みるべき方法と考えられる。わが国では、最近、東北大学を中心に漢方の観察研究が始まっており、さらなる症例の集積が望まれる。なお、使用にあたっては、医師もしくは近くの漢方薬局で相談することが重要であろう。食品については、漢方と同じく抗ウイルス作用が期待されるものや免疫調整作用を有するものが数多く知られているので、観察研究として有望なものを見つけ出すさらなる努力が必要である。

COVID-19 は基本的には肺の病変が主体であるが、猫伝染性腹膜炎 (Feline Infectious Peritonitis;FIP) と同じく、下痢や嘔吐など腸上皮のウイルス感染から発症するタイプも存在する。したがって、治療は上気道と肺、腸に対し同時に開始すべきである。さらに、我々は鼻咽頭や肺胞レベルの局所には、エピガロカテキンガレート (EGCG) 脂肪酸モノエステル⁶⁾ の空中噴霧をはじめ、ワサビや生ニンニクの揮発性成分を吸入する方法などの観察研究を始めている。抗インフルエンザ作用を有する梅ポリフェノールを豊富に含有する梅干しなどの明らか食品についても、民間療法だと軽視せず、先人の知恵を臨床に生かす努力を怠ってはいけないと思われる。また、各種ビタミン、とくにビタミン C やビタミン D についても積極的に観察研究するべきであろう。

最後に、COVID-19 の治療の基本はアビガンで、ウイルスの複製をストップさせ、その間に、漢方や食品で抗ウイルス作用を有するものを積極的に摂取することが重要となろう。臨床の現場では、アビガンと漢方薬や食品との組み合わせは理にかなった方法であると思われるので、今後さらなる研究が待たれる。

まとめ

COVID-19 のセルフメディケーションとして、漢方薬に、ビタミンとハトムギを併用摂取した例を報告した。今後、症例 集積に努めたいと考えている。

参考文献

- 1) 小川恵子. COVID-19 感染症に対する漢方治療の考え方. 日本感染症学会. 2020 年 3 月 19 日公開.
- 2) 渡辺賢治, 金成俊, 柴山周乃ら. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する漢方の役割. No.5008 P.44 (2020 年 04 月 18 日 発行). 日本医事新報.
- 3) 鈴木信孝, 許鳳浩, 上馬塲和夫. Coix-seed Reactive Derivatives (CRD)のTh1/Th2バランスに与える影響. 日本補完代替医療学会誌. 2018:15(2):113-116.
- 4) 鈴木信孝. ハトムギと健康体質. FOOD STYLE 21. 2014;18(6):57-61.
- 5) 永井栄美子, 奥田みずほ, 潘凌風ら. ハトムギ反応生成物エキスの抗インフルエンザウイルス作用. 日本補完代替医療学会誌. 2017:14(2):61-66.
- 6) Kaihatsu K, Yamabe M, Ebara Y. Antiviral mechanism of action of epigallocatechin-3-O-gallate and its fatty acid esters. Molecules. 2018;23(10).